

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和5年7月21日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- 前月に引続き真珠層の褐変個体が確認された。
- 一部の貝に昨年の感染で回復中に形成されたと考えられる段が見られた。
- 貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度合を示す a 値の平均値は低かった。
- 栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は、前月に引続き全海域で高く良好な状態であった。
- 前月中旬まで平年値に比べて 1°C以上低めに推移していた水温は、その後平年並みに推移している。
- 宇和海中部以北で確認されているカレニア赤潮の影響は見られなかった。
- 水温が低めに推移し、餌料環境も良好であったため、ビルナウィルス感染症の進行が遅くなっていると考えられ、今後の水温の上昇や餌料環境によっては、状態が悪化することも予測されるので、貝の管理に御注意願います。

2 調査結果一覧

() 内は昨年同月の値

漁場*1	貝の種類 (R4産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	8.7(7.7)	-0.5(-0.3)	0	35 (20)
中部①	日中交雑貝	7.5(11.8)	-0.4(-0.6)	0	0 (40)
中部②	日中交雑貝	9.4(9.3)	-1.3(-0.9)	0	0 (50)
南部	日中交雑貝	9.2(4.5)	0.5(-0.1)	0	10 (15)
平均値		8.7(8.3)	-0.4(-0.5)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

3 調査方法

- 5月から11月まで月1回(概ね第3週)、各漁場・種類毎に20個を調査。
- サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめぐりに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝(2年貝)。

4 調査項目および判断指標

- グリコーゲン含量(%): アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- a 値: 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。